

漢字にまつわることから調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。

漢字

漢和辞典とは

漢字・漢語 (漢字の熟語) の意義を日本語で解説した辞典のことです。漢字の意味や読み方、成り立ちなどを知ることができます。本来、漢籍 (中国の古典) を読むために作られた辞典です。

現在は、「漢文を読み解くための辞典」と「現代日本語で使われている漢字の理解に重点を置いた辞典」に大きく2分されます。

『大漢和辞典』上製

もろはしてつじ
諸橋轍次著 鎌田正、米山寅太郎修訂 大修館書店 1955-1960年 全13巻

本書は、「漢文を読み解くための辞典」の代表的なものです。1~12巻が本文、13巻が索引となっており、デジタル版 (2018) もデータベース端末でお使いいただけます。

親文字 (見出しになっている漢字) 5万字、熟語 50万語を収録した最大級の漢和辞典のため、他の漢和辞典では見つからなかった漢字を調べることもできます。ただし、日本で作られた漢字 (国字)・熟語など収録されていない漢字もあります。

また、中国古典からの出典と用例が豊富に引用されており、漢詩文の名句、故事成語を調べたり、中国の文化を知る糸口にしたりして、使うことができます。漢字・漢語文化の一大百科といえます。

<ひき方>

*13巻『索引』

- ・読み—「字音索引」、「字訓索引」をひく。訓読みの方が同じ読みが少ないので、探しやすい。
- ・部首—①部首の画数を数える。②「部首索引」で部首を探し、何巻の何ページかを知る。③部首内画数 (部首以外の部分の画数) を数える。④調べたページ欄外の部首内画数と漢字をたどって探す。または、巻の冒頭「総文字 部首順による検字」で正確なページを知る。
- ・読みも部首も分からないとき—「総画索引」をひく。ただし、『大漢和辞典』は収録漢字が大変多いので、あまり実用的ではない。
- ・「四角号碼索引」をひく。漢字を、左上・右上・右下・左下の4つの角の形から分類する。

『「大漢和辞典」を読む』紀田順一郎編 大修館書店 1986 書庫
使いこなすためのガイドブック。「四角号碼索引」についても解説。
『漢和辞典に訊け!』円満字二郎著 筑摩書房 2008 1階
漢和辞典の使い方、ひきにくさ (!) を解説、そして面白さを熱く語る。

『大漢和辞典』で調べてみました！

問① 「国破れて山河あり」という漢詩の作者は誰？

答 13巻『索引』で「国」をひくと、3巻62ページとあります。

【国】「國(3-4798)の俗字」とあるので、【國】(3巻73~89ページ)をひくと、
 「【國破山河在】クニヤブレサカアリ(89ページ) 国家は破れ人民は離散したが、唯自然の山河のみは依然として昔のままにある。〔杜甫、春望詩〕国破山河在、城春草木深、感し時花濺し涙、恨し別鳥驚し心、(後略)」とあります。

上記のことから、杜甫の「春望」という詩であることが判明します。こちらの詩は『杜甫全詩集』等に掲載されています。

問② ある人の名前「矩男」の「矩」は、父親が『論語』の孔子の言葉からとったとのこと。『論語』のその部分が読みたい。

答 「矩」の読みが分からない場合、まず部首からひきます。

部首は「矢」と想定して、13巻の部首索引を見ると、「矢」部は8巻276ページとあります。8巻の冒頭「部首順による検字」の「矢」部の漢字一覧を見ると、「巨」は5画なので見ていくと、「矩」は288ページにあります。

【矩】㊦のり。きまり。おきて。つね。〔論語、為政〕不レ踰レ矩。

【不レ踰レ矩】リヲユズ 規則にはづれぬ。(中略) 〔論語、為政〕七十而従心所欲不踰矩。

『論語』の「為政」をあたる。読み下し文：七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず

解釈：欲望のままに動いても、人間の法則は踰えないという境地に達した。

調べてみよう！

* 夏目漱石のペンネーム「漱石」には何か意味があるのだろうか？

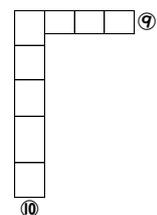
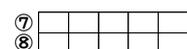
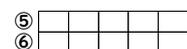
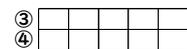
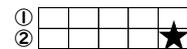
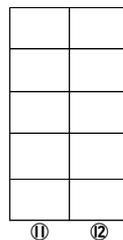
* 「牛膝」と書いて何と読むのか。また何のことなのか？

* 「忖度」の読みと意味は？

まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

上記の参考図書はこちら→

中央図書館3階



図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

漢和辞典は【823】を探してみてください。



カウンター

わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。